

平成26年3月期 第2四半期決算短信[日本基準](連結)

平成25年10月31日

上場会社名 株式会社 ショクブン

上場取引所 東名

工場会社名 株式会社 ジョクノノ コード番号 9969 URL <u>ht</u>

9 URL http://www.shokubun.co.jp

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)川瀬 公問合せ先責任者(役職名)取締役経理部長 (氏名)田野 光夫四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日 配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有 四半期決算説明会開催の有無 : 無 (氏名) 川瀬 公 (氏名) 田野 光夫 TEL 052-773-1011

平成25年11月29日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利	J益	経常和	山益	四半期純	利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	4,408	△4.6	△3	_	△59	_	74	_
25年3月期第2四半期	4,619	△10.3	△36	_	△85	_	△68	_

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 55百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △81百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円銭	円銭
26年3月期第2四半期	6.25	_
25年3月期第2四半期	△5.82	_

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	
	百万円	百万円	%	
26年3月期第2四半期	10,349	3,515	34.0	
25年3月期	10,579	3,502	33.1	

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 3,515百万円 25年3月期 3,502百万円

2. 配当の状況

HO 47 /////									
		年間配当金							
	第1四半期末	第2四半期末	期末	合計					
	円 銭	円 銭	円 銭	円銭	円 銭				
25年3月期	_	3.50	_	3.50	7.00				
26年3月期	_	3.50							
26年3月期(予想)			_	3.50	7.00				

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日~平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上	高	営業和	引益	経常和	引益	当期純	利益	1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	9,652	0.5	228	128.2	121	_	174	_	14.68

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無② ①以外の会計方針の変更 : 無③ 会計上の見積りの変更 : 無④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 26年3月期2Q 11,856,669 株 25年3月期 11,856,669 株 2 期末自己株式数 26年3月期2Q 5,137 株 25年3月期 2,995 株 3 期中平均株式数(四半期累計) 26年3月期2Q 11,852,451 株 25年3月期2Q 11,855,293 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビューが実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものはありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
	(1) 経営成績に関する説明	2
	(2) 財政状態に関する説明	2
	(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2.	サマリー情報 (注記事項) に関する事項	2
	(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
	(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
	(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3.	四半期連結財務諸表	3
	(1)四半期連結貸借対照表	3
	(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
	(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
	(継続企業の前提に関する注記)	7
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
	(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1)経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、金融・経済政策などを背景に円安・株高が進み、企業業績は改善されつつあります。個人消費の上昇に対する期待感はあるものの、その一方で、円安に伴う原材料価格の高騰、雇用・所得環境の低迷等、先行きに対する不透明感も依然として存在したこともあり、消費者の節約志向は強く、当社グループを取り巻く環境は引き続き厳しい状況で推移しました。このような中、当社はメニュー内容の充実を図るとともにお試し半額キャンペーンによる新規顧客開拓やサービスポイントを利用した既存顧客の継続利用に取り組んでいます。

当社グループはこのような環境下において、お客様の健康を第一に考え、安全で安心のできる美味しい食材をお届けするという基本を徹底するため設けた行動基準「1.安全・安心 2.接客 3.材料・メニューの良さ」を実践し、お客様に安心してご利用いただけるように努めております。

また、新たな事業として、介護施設様向けに「介護食」の販売と調理の受託をする準備に入りました。介護サービスを受けられる方々のニーズの多様化により、介護施設様のご負担は増大しております。当社は35年間培った

「食」に関するノウハウを活かし、各施設様をお食事面からサポートさせていただきます。「安全・安心」で美味しいご家庭の味をお届けするとともに、各施設様の状況に応じて「調理済み食品」、「下味付済み食品」、「カット野菜」を使用して、調理時間の短縮を可能にする「楽らく簡単メニュー」や、ご利用者と食事作りの楽しさを味わっていただく「手作りメニュー」をご用意して、手間とコストの両面からサービスを提供してまいります。また、施設利用者様1日の楽しみの大部分は食事をすることであります。これらの点について介護施設様や施設利用者様の当社に対する評価は高く、この度営業に着手しました。

結果、売上面では、主力のメニュー商品売上高は42億52百万円(前年同四半期比95.4%)になり、特売商品売上高は1億56百万円(前年同四半期比97.4%)になりました。

一方、今夏の猛暑、豪雨等の天候不順により生鮮野菜等の仕入価格高騰に見舞われました。しかし、生産、販売体制を見直し各種施策を行ったことが効率的な生産、販売活動の実現に寄与し、コスト削減に繋がったこともあり、売上原価率はほぼ前年同四半期並みの58.4%になり、販売費及び一般管理費は前年同四半期に比べ1億29百万円減少いたしました。

さらに、経営資源の効率的な活用並びに財務体質の改善を図るため、東京支社の土地を一部売却し、これにより 1億97百万円の固定資産売却益を計上しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は44億8百万円(前年同四半期比95.4%)、経常損失は59百万円(前年同四半期は85百万円の経常損失)になり、四半期純利益は74百万円(前年同四半期は68百万円の四半期純損失)になりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産の部では、前連結会計年度末に比べ土地が2億71百万円減少したこと等により、資産合計は前連結会計年度末に比べ2億30百万円減少の103億49百万円になりました。

負債の部では、前連結会計年度末に比べ長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む。)が68百万円増加しましたが、短期借入金が3億10百万円減少したこと等により、負債合計は前連結会計年度末に比べ2億43百万円減少の68億33百万円になりました。

純資産の部では、前連結会計年度末に比べ利益剰余金が32百万円増加したこと等により、純資産合計は前連結会計年度末に比べ13百万円増加の35億15百万円になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの連結業績予想については、平成25年5月10日に公表しました予想数値を変更しております。詳細は、本日付「業績予想との差異及び業績予想の修正に関するお知らせ」を発表しておりますので、ご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日) 該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表 (1)四半期連結貸借対照表

	前連結会計年度	当第2四半期連結会計期間
	(平成25年3月31日)	(平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1, 779, 801	1, 723, 913
受取手形及び売掛金	16, 181	28, 83
原材料及び貯蔵品	103, 240	138, 694
繰延税金資産	52, 246	62, 55
その他	40, 109	59, 24
貸倒引当金	<u>△122</u>	△123
流動資産合計	1, 991, 456	2, 013, 113
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1, 428, 675	1, 383, 63
土地	5, 933, 295	5, 662, 01
その他(純額)	215, 477	223, 96
有形固定資産合計	7, 577, 447	7, 269, 61
無形固定資産	61, 293	60, 34
投資その他の資産		
投資有価証券	438, 042	413, 58
繰延税金資産	19, 936	3, 12
その他	491, 394	589, 31
投資その他の資産合計	949, 373	1, 006, 02
固定資産合計	8, 588, 114	8, 335, 98
資産合計	10, 579, 571	10, 349, 09
債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	359, 706	344, 62
短期借入金	760, 000	450, 000
1年内返済予定の長期借入金	1, 202, 696	1, 239, 610
未払法人税等	26, 660	25, 58
賞与引当金	31,000	26, 60
その他	495, 688	518, 82
流動負債合計	2, 875, 750	2, 605, 25
固定負債		
社債	125, 000	104, 00
長期借入金	3, 903, 332	3, 934, 60
繰延税金負債	<u> </u>	22, 23
退職給付引当金	35, 258	20, 86
資産除去債務	23, 188	23, 43
その他	114, 321	122, 84
固定負債合計	4, 201, 100	4, 227, 979
負債合計	7, 076, 850	6, 833, 22
只具目目	1,010,000	0, 000, 2

(単位:千円)

		(十二:11)
	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1, 148, 010	1, 148, 010
資本剰余金	1, 488, 147	1, 488, 147
利益剰余金	780, 037	812, 672
自己株式	$\triangle 1,455$	△2, 466
株主資本合計	3, 414, 739	3, 446, 363
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	87, 981	69, 502
その他の包括利益累計額合計	87, 981	69, 502
純資産合計	3, 502, 721	3, 515, 866
負債純資産合計	10, 579, 571	10, 349, 096

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結損益計算書 第2四半期連結累計期間

(単位:千円) 当第2四半期連結累計期間 前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 (自 平成25年4月1日 至 平成24年9月30日) 至 平成25年9月30日) 売上高 4,619,117 4, 408, 754 売上原価 2,686,387 2, 572, 882 1, 932, 730 1, 835, 871 売上総利益 1, 968, 972 1,839,574 販売費及び一般管理費 営業損失 (△) △36, 242 $\triangle 3,702$ 営業外収益 受取利息 4, 187 3, 243 受取配当金 3,516 3,919 受取手数料 1,633 1, 265 受取賃貸料 2,782 2,716 投資有価証券運用益 87 2, 346 その他 1,306 営業外収益合計 13, 427 13, 579 営業外費用 56, 453 支払利息 56, 965 投資有価証券運用損 4, 436 その他 1,895 12,897 営業外費用合計 62, 784 69,863 経常損失 (△) △85, 599 $\triangle 59,986$ 特別利益 固定資產売却益 197,867 特別利益合計 197,867 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 137,881 $\triangle 85,599$ 純損失 (△) 法人税、住民税及び事業税 24,822 24,956 法人税等調整額 $\triangle 41,479$ 38, 801 法人税等合計 $\triangle 16,657$ 63, 757 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 △68, 942 74, 123 調整前四半期純損失 (△) 四半期純利益又は四半期純損失 (△) △68, 942 74, 123

四半期連結包括利益計算書 第2四半期連結累計期間

		(単位:千円)
	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△68, 942	74, 123
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12, 680	△18, 478
その他の包括利益合計	△12, 680	△18, 478
四半期包括利益	△81, 622	55, 644
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△81, 622	55, 644

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年10月31日開催の取締役会において、介護事業者様の食堂運営事業を行うための子会社を設立することを決議しました。

1. 子会社設立の目的

近年、高齢化社会を迎え、各種形態の介護施設が増加し、その市場規模は急速に拡大しております。また介護サービスを利用される方の「食」に対する期待は大きく、美味しい食事は施設利用者様にとって最大の楽しみになっています。

このように拡大している介護事業の一部に参加すべく、介護食の販売と介護食調理の請負いを行う子会社をこの度、設立いたします。

当社は、福祉施設様からの要請により、介護食を納める知遇を得てそのノウハウの蓄積に努めてまいりました。 家庭内食の美味しさとバラエティに富んだメニュー並びに使用食材の良さ等を特徴にして、介護食を専門にした 事業を新規開業するに至りました。

2. 設立する子会社の概要

(1)商 号	介護食運営株式会社
(2)所 在 地	愛知県名古屋市守山区向台三丁目 1807 番地
(3)代表者	川 瀬 公 (当社代表取締役)
(4)資本金	50,000 千円
(5)設立年月日	平成 25 年 11 月 (予定)
(6) 主な事業内容	介護食の調理・社員食堂等の運営
(7) 出資比率	当社 100%
(8) 決 算 期	3月末

平成26年3月期 第2四半期決算短信(発表資料の要約)

当社の平成26年3月期 第2四半期決算につきまして、配布の決算短信のとおり発表させていただきます。

1. 業績について

イ 当第2四半期累計期間の業績

			(連結)		(個別)	
				前年同期比		前年同期比
売	上	高	44億08百万円	95.4%	44億03百万円	95.5%
営	業利	益	△3百万円	- %	△30百万円	- %
経	常利	益	△59百万円	- %	△56百万円	- %
当	期純利	益	74百万円	- %	87百万円	- %
1树	当たり当期	基础	6円25銭		7円39銭	

- (注) 当社の連結対象子会社は、株式会社食文化研究所1社であります。
- ① 売上高は44億8百万円になりました。金融・経済政策などを背景に円安・株高が進み、企業業績は改善されつつあります。個人消費の上昇に対する期待感はあるものの、その一方で、円安に伴う原材料価格の高騰、雇用・所得環境の低迷等、先行きに対する不透明感も依然として存在したこともあり、消費者の節約志向は強く、当社グループを取り巻く環境は引き続き厳しい状況で推移し、売上高は前年に比べ4.6%減少しました。このような中、当社はメニュー内容の充実を図るとともにお試し半額キャンペーンによる新規顧客の開拓やサービスポイントを利用した既存顧客の継続利用に取り組んでいます。
- ② 経常損失は59百万円(前年同期は85百万円の経常損失)になりました。今夏の猛暑、豪雨等の天候不順により生鮮野菜等の仕入価格が高騰しましたが、生産、販売体制を見直し各種施策を行ったことが効率的な生産、販売活動の実現に寄与し、コスト削減に繋がったことによるものであります。
- ③ 経営資源の効率的な活用並びに財務体質の改善を図るため、東京支社の土地の一部を売却し、固定資産売却益を1億97百万円計上したこともあり、四半期純利益は74百万円(前年同期は68百万円の四半期純損失)になりました。

ロ 通期の業績予想

	(連結)		(個別)	
下 期		前年同期比		前年同期比
売 上 高	5 2億4 3百万円	105.1%	52億36百万円	105.1%
営 業 利 益	2億31百万円	170.2%	2億01百万円	188.3%
経 常 利 益	1億81百万円	203.2%	1億51百万円	252.5%
当期純利益	99百万円	206.5%	80百万円	264.3%
通期		前期比		前期比
売 上 高	96億52百万円	100.5%	96億40百万円	100.5%
営 業 利 益	2億28百万円	228.2%	1億71百万円	380.4%
経 常 利 益	1億21百万円	- %	94百万円	- %
当期純利益	1億74百万円	- %	1億67百万円	- %
1株当たり当期4年1	14円68銭		14円15銭	

2. 株主還元策について

イ 配当金

当中間配当金	1株当たり3.5円にさせていただきます。		
期末配当金予想	1株当たり3.5円を予定しております。(年間7円を予定しております。)		

口 株主優待策

毎年3月31日及び9月30日現在の当社株式1千株以上所有の株主に対し、半期8千円(通期16千円)相当の自社製品を進呈いたします。(従来どおり)

3. 財政状態について

財政状態は、決算短信2ページ(2)財政状態に関する説明に記載のとおりです。

自己資本比率は、前期末の33.1%から34.0%になりました。この主な理由は、その他有価証券評価差額金が減少しましたが、利益剰余金の増加により純資産が13百万円増加したことによるものであります。

4. 設備投資について

当第2四半期	設備金額	58百万円 主なものは	
累計期間		設備更新等	10百万円
		リース資産	47百万円
	減価償却費	97百万円	
通期予想	設備金額	当第2四半期累計期間分を含め、	1億50百万円を予定しております。
		設備の新設、更新等	1億50百万円
	減価償却費	2億円	

5. 通期の見通しについて

当社では本年9月から、お客様がご利用しやすくなるよう、週日内の祝祭日を営業日にして、土曜日を振替休日にしました。これにより、お客様に毎週月曜日からご家庭で「安全・安心」な食材を召し上がっていただけることができるようになり、利便性が増しました。また、週の初めから仕事に取り組めることで、一週間を通じて段取り良く営業活動ができることになり、週日内の祝祭日における受注内容は増加する結果になりました。引き続き、商品構成を充実させ、商品の魅力をお客様へアピールすることにより、売上高の一層の増加を図ってまいります。

また、介護食事業を専門的に施行する為に介護食運営株式会社を100%子会社として設立することになり、新たな事業として、介護施設様向けに「介護食」の販売と調理の受託をする準備に入りました。介護サービスを受けられる方々のニーズの多様化により、介護施設様のご負担は増大しております。当社は35年間培った「食」に関するノウハウを活かし、各施設様をお食事面からサポートさせていただきます。また、施設利用者様、1日の楽しみの大部分は食事をすることであります。これらの点について介護施設様や施設利用者様の当社に対する評価は高く、この度営業に着手しました。

その一方で、仕入製造部門におきましても商材を厳選すると同時に、更なる効率的なシステムの構築を 促進し、安定的に利益を確保できるよう努めてまいります。

以上、当第2四半期連結累計期間の業績の結果及び下期の見通しにより、通期の業績につきましては、前回発表予想(平成25年5月10日発表)を修正し、売上高は96億52百万円、営業利益は2億28百万円、経常利益は1億21百万円、当期純利益は1億74百万円を予定しております。

以上